

## 「遊び」があってはじめて車は走る

6月1日、京都の町は気温36℃を記録し猛暑日となりました。北海道では猛烈な暑さによる「旋風（つむじ風）」が発生し、全国各地でもゲリラ的な豪雨などが続いています。私たちの周りで吹く“風”は涼しさを運んでくれますが、時には熱風や豪雨をも連れてきて、災害をもたらします。自然現象が私たちの思い通りにならないように、勉強も時には思い通りに前に進まない日もあるようです。そのような時、ちょっと違う視点で自分の生活を見つめてみませんか。

さて、自転車や自動車のハンドルやペダルには「遊び」があることはご存知ですか。ハンドルをもったとき、少しガタガタと余裕があることに気づきます。この「余裕（遊び）」がないと、ハンドルやペダルを回したり踏んだりすると急旋回、急発進して危険だけでなく、二輪で走る自転車はバランスをとることができません。「遊び（余裕）」があってはじめて自転車や自動車は走ることができるのです。

私たちの日常生活の中でも、少し「余裕（遊び）」をもつことが必要ではないでしょうか。「余裕（遊び）」の中から生活に潤いや将来への希望などが生まれてくる場合もあります。私も中学時代に親友が、難しそうな哲学書を片手に「人生について考えたことがあるか」と、学校からの帰り道に問いかけてきた姿を今でも鮮明に覚えています。その友はちょっと大人のようにまぶしく、夕焼けにきらめいていました。何か好きなことに熱中する、親子の対話や友だちと語り合う、違った視点で本を読む、自然や芸術作品に触れてしてみるのも良いかもしれませんね。時間に追われる現代社会だからこそ、心や時間に「余裕（遊び）」も必要だと思います。



〈明日香 飛鳥川の飛び石〉

「遊びとは、まえもって単一の価値や意味を決めておくことをあえてせずに、余裕を持って大切に残された部分です。遊びそれ自体は無駄に思えるかもしれませんが、遊びがあってはじめて偶発的な出会いや発見がうまれます。遊びのある社会こそ、創造性は生まれやすし、希望もつくりだせるのです。」（『希望のつくり方』玄田有史）

暑さや梅雨空に負けず、余裕のある「時間」や「空間」をつくり、心の余裕をもって「仲間」とともに学校生活を楽しみましょう。